

鉄源流通量調査結果（2017暦年）

1. 主要指標

2017年（平成29年）の主要指標を図表1に示した。

2017年の粗鋼生産量は3年連続の前年減となる1億466万トンとなった（対前年11.3万トン減、同0.1%減）。炉別に見ると、転炉は2年ぶりの前年減となる7,934万トン（同217.0万トン減、同2.7%減）、電炉は3年ぶりの前年増となる2,532万トン（同205.7万トン増、同8.8%増）となった。

国内の鉄スクラップ購入量は3年ぶりの前年増となる2,409万トン（同224.5万トン増、同10.3%増）となった。内訳を見ると、域内調達量が3年ぶりの前年増となる2,062万トン（同183.1万トン増、同9.7%増）、域外調達量も3年ぶりの前年増となる347万トン（同41.5万トン増、同13.6%増）であった。域内調達率の伸びが域外調達率の伸びを下回ったことから、域内調達率は2年連続の低下となる85.6%（同0.4ポイント低下）となった。また、炭素鋼スクラップ（HSコード：7204.41.000、7204.49.100、7204.49.200、7204.49.900）の輸出量は3年ぶりの前年減となる799万トン（同52.9万トン減、同6.2%減）となった。

スクラップ出荷量合計（購入量と輸出量の合計）は2年連続の前年増となる3,208万トン（同171.7万トン増、同5.7%増）となった。

図表1 主要指標推移

単位：1,000M.T. %

		2014年	2015年	2016年	2017年	対前年	
						増減	%
スク ラ ッ プ 内	購入量	24,681	22,015	21,845	24,091	2,245	10.3%
	域内調達量	20,767	18,947	18,789	20,619	1,831	9.7%
	（域内調達率）	84.1	86.1	86.0	85.6	▲ 0.4	-0.5%
	域外調達量	3,913	3,068	3,057	3,471	415	13.6%
輸出量 ¹⁾		7,193	7,563	8,515	7,986	▲ 529	-6.2%
出荷量計 ²⁾		31,874	29,577	30,360	32,077	1,717	5.7%
転炉粗鋼生産量		84,987	81,081	81,513	79,343	▲ 2,170	-2.7%
電炉粗鋼生産量 ³⁾		25,679	24,053	23,262	25,320	2,057	8.8%
粗鋼生産量計		110,666	105,134	104,775	104,662	▲ 113	-0.1%

* 対象は全て炭素鋼スクラップのみ

1) HSコード：7204.41.000、7204.49.100、7204.49.200(2015年1月以降)、7204.49.900の合計

2) 出荷量計＝国内購入量＋輸出量

3) 電炉粗鋼生産量＝粗鋼生産量計－転炉粗鋼生産量

製鋼法別のスクラップ消費量（購入スクラップの他、自家発生スクラップなどを含む）を図表2に示した。

クォーター誌「つげん」Vol.62 2014秋号の特集記事3で示したように、2014年1月の「生産動態統計」の改正により、銑鉄の全国消費量・在庫量、転炉、電炉、鋳物用等の需要部門別消費量・在庫量が把握出来なくなり、銑鉄消費量、銑鉄配合比、鉄屑配合比の算出が不可能となっている。従い、以下スクラップ消費量に関してのみ記述する。

転炉のスクラップ消費量は、2年連続の前年増となる1,038万トン（対前年68.7万トン増、前年比7.1%増）、電炉のスクラップ消費量は、3年ぶりの前年増となる2,540万トン（同152.6万トン増、同6.4%増）となった。

図表2 製鋼法別スクラップ消費量

単位：1,000M.T(スクラップ原単位はkg)、%

	転炉					電炉				
	粗鋼 生産量	鉄源 消費量	スクラップ 消費量	スクラップ 原単位	スクラップ 配合率	粗鋼 生産量	鉄源 消費量	スクラップ 消費量	スクラップ 原単位	スクラップ 配合率
2013年	85,680	93,251	10,484	122.4	11.2%	24,915	26,504	26,168	1,050.3	98.7%
2014年	84,987	n.a.	10,365	122.0	n.a.	25,679	n.a.	26,505	1,032.2	n.a.
2015年	81,081	n.a.	8,622	106.3	n.a.	24,053	n.a.	24,904	1,035.4	n.a.
2016年	81,513	n.a.	9,694	118.9	n.a.	23,262	n.a.	23,872	1,026.2	n.a.
2017年	79,343	n.a.	10,381	130.8	n.a.	25,320	n.a.	25,398	1,003.1	n.a.
対前年(増減) (%)	▲ 2,170 -2.7%		687 7.1%	11.9		2,057 8.8%		1,526 6.4%	▲ 23.1	

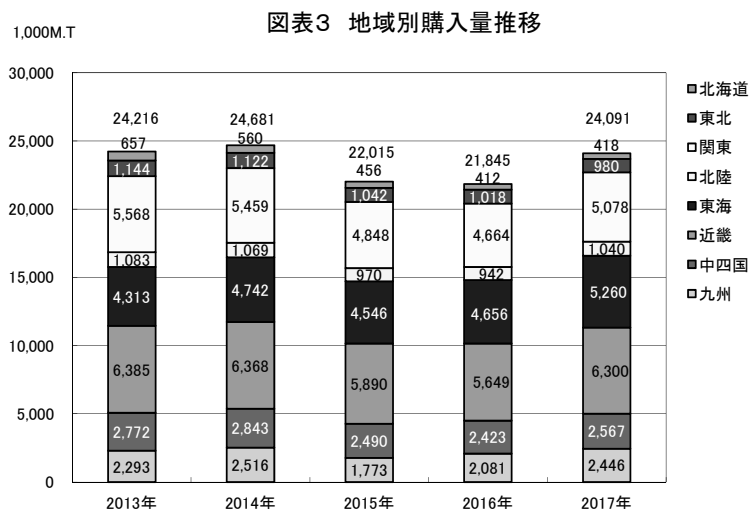
データ出所：経済産業省

* 2014年1月の統計調査改正により、鉄源消費量・スクラップ配合率の算定が不能となった

2. 地域別購入量と地域間流通量

地域別鉄スクラップ購入量の推移を図表3に示した。

国内の購入量合計は3年ぶりの前年増となる2,409万トン（対前年224.5万トン増、同10.3%増）となった。地域別に見ると、東北は4年連続の前年減となる98.0万トン（同3.8万トン減、同3.7%減）と減少を続けた。その他の地域では増加しており、北海道は4年ぶりの前年増となる41.8万トン（同0.6万トン増、同1.4%増）、関東も4年ぶりの前年増となる507.8万トン（同41.4万トン増、同8.9%増）、北陸も4年ぶりの前年増となる104.0万トン（同9.8万トン増、10.4%増）、東海は2年連続の前年増となる526.0万トン（同60.4万トン、同13.0%増）、近畿は4年ぶりの前年増となる630.0万トン（同65.1万トン増、同11.5%増）、中四国は3年ぶりの前年増となる256.7万トン（同14.5万トン増、同6.0%増）、九州は2年連続の前年増となる244.6万トン（同36.5万トン増、同17.6%増）となった。



図表4 鉄源の地域別流通状況 (2017年)

単位: 1,000M.T, %

出荷元 メーカー所在地	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中四国	九州	その他	(構成比) A 国内スクラップ 購入量計	C 他地区 から流入量 A-B	域外調達率 C/A	D 域内 調達率 B/A
北海道	B 【418.2】									(1.7) 418.2			100.0
東北		B 【824.4】	103.6	10.1	16.1		26.3			(4.1) 980.5	156.0	15.9	84.1
関東		79.1	B 【4,992.8】	2.0	1.2	0.4			2.7	(21.1) 5,078.3	85.5	1.7	98.3
北陸		117.5	47.6	B 【767.8】	106.9					(4.3) 1,039.7	271.9	26.2	73.8
東海	13.6	13.4	259.6	32.5	B 【4,883.9】	51.0		6.2		(21.8) 5,260.2	376.3	7.2	92.8
近畿		3.7	325.6	113.6	283.7	B 【4,684.6】	733.0	156.3		(26.2) 6,300.4	1,615.8	25.6	74.4
中四国		1.2	35.0	7.2	51.5	108.3	B 【1,854.7】	509.6		(10.7) 2,567.3	712.5	27.8	72.2
九州	3.6		51.1		5.0		175.7	B 【2,192.8】	17.6	(10.2) 2,446.0	253.1	10.3	89.7
(構成比)	(1.8)	(4.3)	(24.1)	(3.9)	(22.2)	(20.1)	(11.6)	(11.9)	(0.1)	(100.0)			
G 国内出荷計	435.4	1,039.4	5,815.2	933.2	5,348.3	4,844.2	2,789.8	2,865.0	20.1	24,090.5	3,471.2	14.4	85.6
H 他地区へ 流出量 G-B	17.3	214.9	822.4	165.3	464.4	159.6	935.0	672.2	20.1	3,471.2			
域外出荷率 H/G	(4.0)	(20.7)	(14.1)	(17.7)	(8.7)	(3.3)	(33.5)	(23.5)	(100.0)	(14.4)			
純流出入量 H-C	17.3	58.9	736.9	▲ 106.6	88.0	▲ 1,456.2	222.5	419.1	20.1				
(構成比)	(7.3)	(7.9)	(38.8)	(5.5)	(15.4)	(9.0)	(3.6)	(12.4)		(100.0)			
I 輸出量	580.3	634.2	3,099.8	441.7	1,228.5	720.9	290.0	991.0		7,986.5			
(構成比)	(3.2)	(5.2)	(27.8)	(4.3)	(20.5)	(17.3)	(9.6)	(12.0)	(0.1)	(100.0)			
J 出荷量合計 G+I	1,015.7	1,673.6	8,915.0	1,374.9	6,576.8	5,565.1	3,079.7	3,856.0	20.1	32,077.0			

域内調達量【 】の計
20,619.3

注 B: 域内調達量【 】

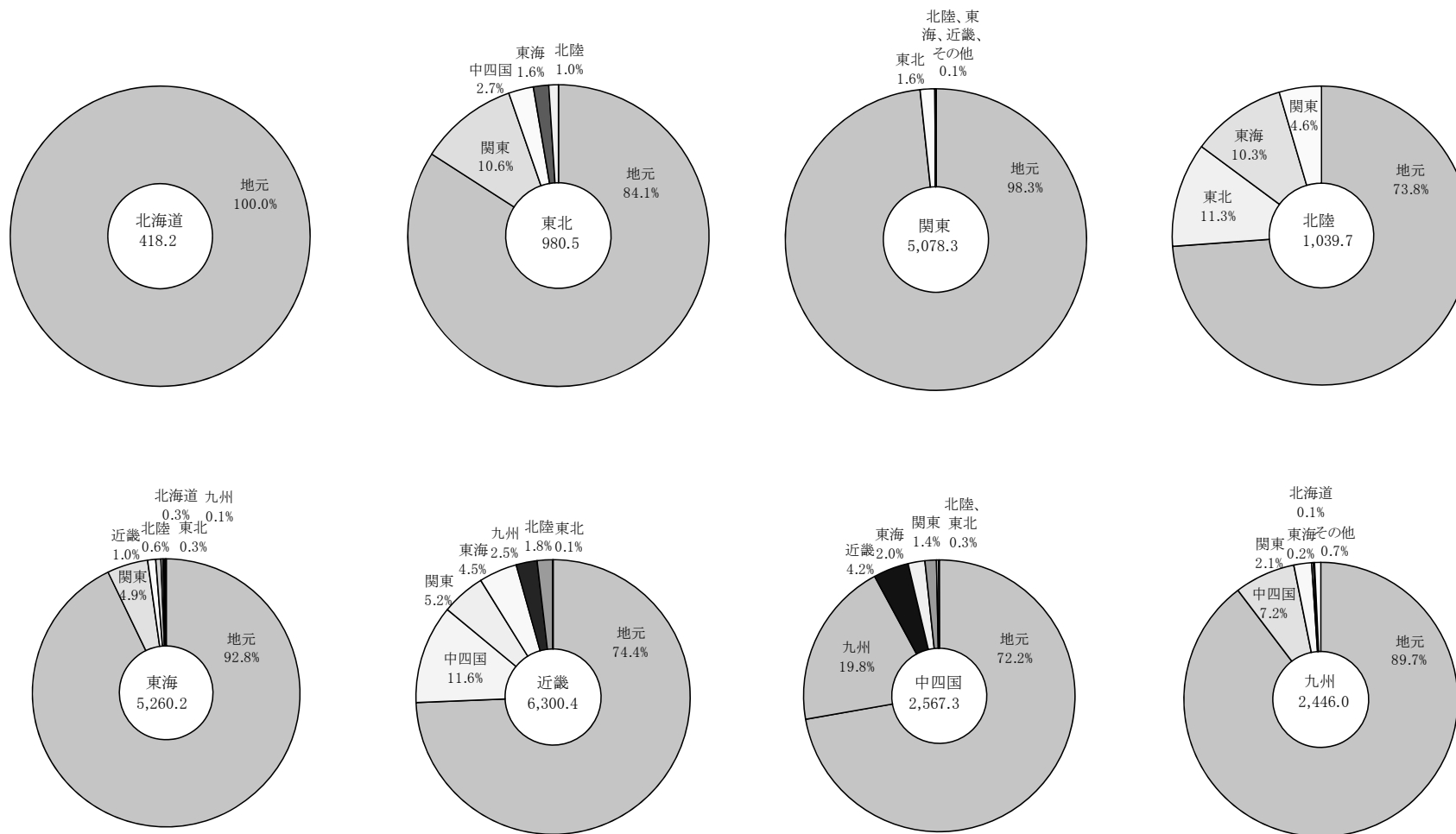
調査対象事業所数:
84事業所

調査対象品種:
炭素鋼スクラップ

輸出量: 切削くず及び打抜きくず(HSコード7204.41.000)+その他の鉄鋼くず(HSコード7204.49.100、7204.49.200、7204.49.900)

図表5 地域別購入量内訳 (2017年)

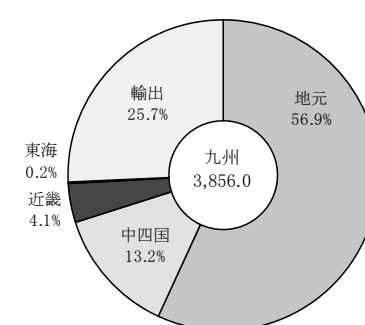
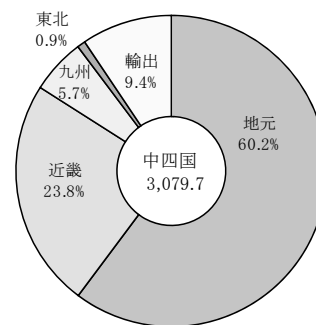
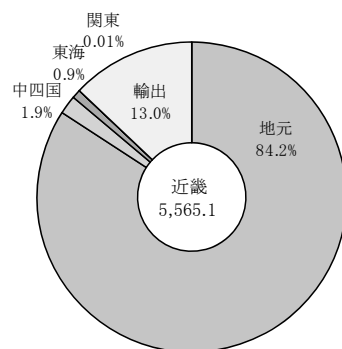
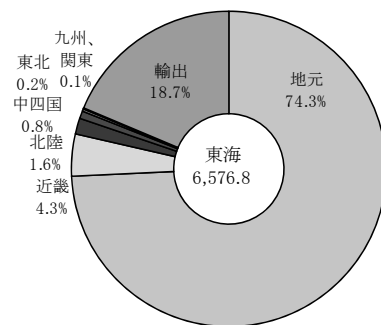
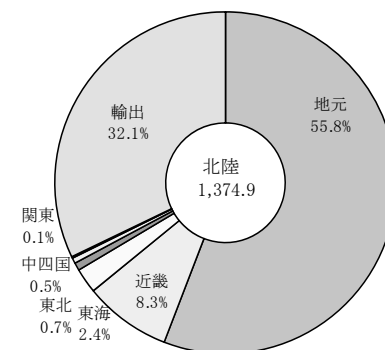
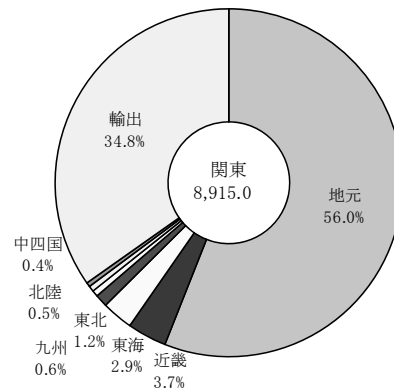
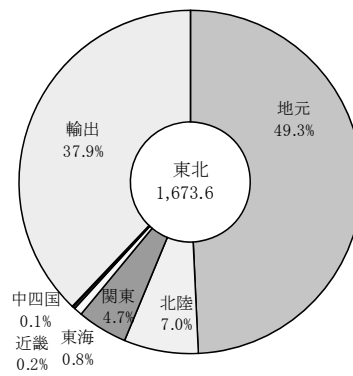
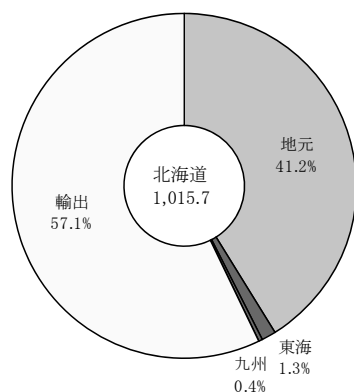
単位: 1,000M.T



* 図表4に基づき作成

図表6 地域別出荷量内訳 (2017年)

単位: 1,000M.T



* 図表4に基づき作成

地域別の流通状況を図表4、図表5、図表6に示した。

域内調達量の合計は3年ぶりの前年増となる2,062万トン（対前年183.1万トン増、同9.7%増）となった。地域別に見ると、東北は3年連続の前年減となる82.4万トン（同1.1万トン減、同1.3%減）と減少した。その他の地域は全て増加しており、北海道は4年ぶりの前年増となる41.8万トン（同0.7万トン増、同1.8%増）、関東も4年ぶりの前年増となる499.3万トン（同41.0万トン増、同8.9%増）、北陸は2年連続の前年増となる76.8万トン（同5.3万トン増、同7.4%増）、東海は2年連続の前年増となる488.4万トン（同41.1万トン増、同9.2%増）、近畿は6年ぶりの前年増となる468.5万トン（同55.3万トン増、同13.4%増）、中四国は3年ぶりの前年増となる185.5万トン（同10.8万トン増、同6.2%増）、九州は2年連続の前年増となる219.3万トン（同30.0万トン増、同15.8%増）となった。

全体の域内調達率は2年連続の低下となる85.6%（対前年0.4ポイント低下）であった。地域別に見ると、北海道は3年連続の上昇となる100.0%（同0.4ポイント上昇）、東北は2年ぶりの上昇となる84.1%（同2.1ポイント上昇）、関東は4年連続の上昇となる98.3%（同0.1ポイント上昇）、北陸は5年ぶりの低下となる73.8%（同2.1ポイント低下）、東海は2年連続の低下となる92.8%（同3.2ポイント低下）、近畿は3年連続の上昇となる74.4%（同1.2ポイント上昇）、中四国は2年ぶりの上昇となる72.2%（同0.1ポイント上昇）、九州は2年連続の低下となる89.7%（同1.3ポイント低下）となった。

地域間の流通量を図表7に示した。

西送り量合計は4年ぶりの前年増となる42.0万トン（対前年19.7万トン増、同88.0%増）となった。内、関東からの移出量は3年ぶりの前年増となる41.2万トン（同19.2万トン増、同87.0%増）であった。

3地域への流入量を見ると、近畿への流入量は3年ぶりの前年増となる161.6万トン（同9.8万トン増、同6.5%増）、内、西送り量は3年ぶりの前年増となる32.9万トン（同15.6万トン増、同90.2%増）となった。一方、域外調達率は3年連続の低下となる25.6%（同1.2ポイント低下）となった。中四国への流入量は2年連続の前年増となる71.3万トン（同3.7万トン増、同5.4%増）、内、西送り量は2年連続の前年増となる3.6万トン（同0.4万トン増、同10.7%増）となった。一方、域外調達率は2年ぶりの低下となる27.8%（同0.1ポイント低下）となった。九州への流入量は2年連続の前年増となる25.3万トン（同6.5万トン増、同34.9%増）、内、西送り量は2年連続の前年増となる5.5万トン（同3.7万トン増、同210.0%増）、域外調達率は2年連続の上昇となる10.3%（同1.3ポイント上昇）となった。また、3地域への流入量258.1万トンに占める西送り量42.0万トンのシェアは、4年ぶりの上昇となる16.3%（同6.9ポイント上昇）となった。

関東からの移出量は2年連続の前年増となる82.2万トン（同28.4万トン増、同52.6%増）、輸出货量は4年ぶりの前年減となる310.0万トン（同25.6万トン減、同7.6%減）となり、移輸出货量合計では2年連続の前年増となる392.2万トン（同2.7万トン増、同0.7%増）となった。また、域外出荷率は2年連続の上昇となる14.1%（同3.6ポイント上昇）となった。

図表7 地域間流通量

単位：1,000M.T. %

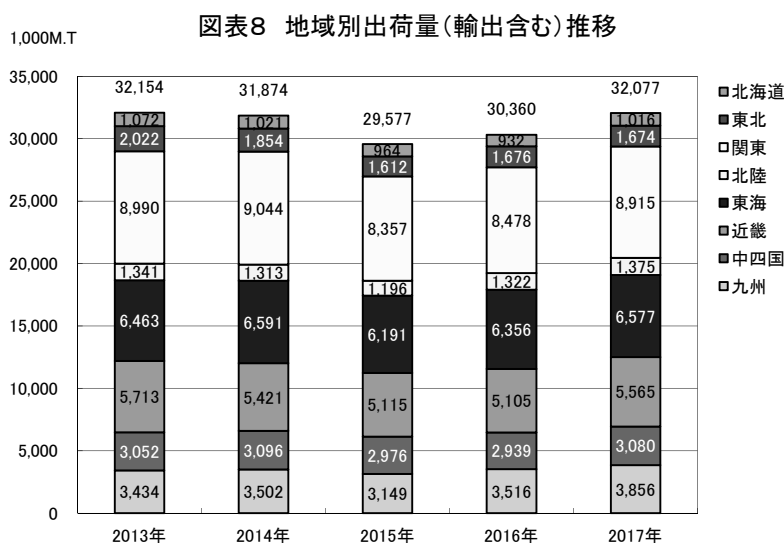
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	対前年	
						増減	%
西送り量	755	741	345	224	420	197	88.0%
内 関東から	675	701	339	220	412	192	87.0%
近畿への流入量	1,634	1,880	1,680	1,518	1,616	98	6.5%
内 西送り量	526	541	301	173	329	156	90.2%
(域外調達率)	25.6	29.5	28.5	26.9	25.6	▲ 1.2	
中四国への流入量	853	844	674	676	713	37	5.4%
内 西送り量	106	75	28	33	36	4	10.7%
(域外調達率)	30.8	29.7	27.1	27.9	27.8	▲ 0.1	
九州への流入量	339	450	113	188	253	65	34.9%
内 西送り量	124	125	15	18	55	37	210.0%
(域外調達率)	14.8	17.9	6.4	9.0	10.3	1.3	
関東からの移出量	925	934	532	539	822	284	52.6%
輸出量	2,622	2,755	3,066	3,356	3,100	▲ 256	-7.6%
移輸出計	3,548	3,688	3,598	3,895	3,922	27	0.7%
(域外出荷率)	14.5	14.8	10.1	10.5	14.1	3.6	

* 西送りとは、「近畿・中四国・九州」が「関東・東北・北海道」から購入した量
 * 域外調達率＝他地域からの購入量／購入量合計
 * 域外出荷率＝国内他地域への移出量／国内向け出荷量計

3. 地域別出荷量と輸出量

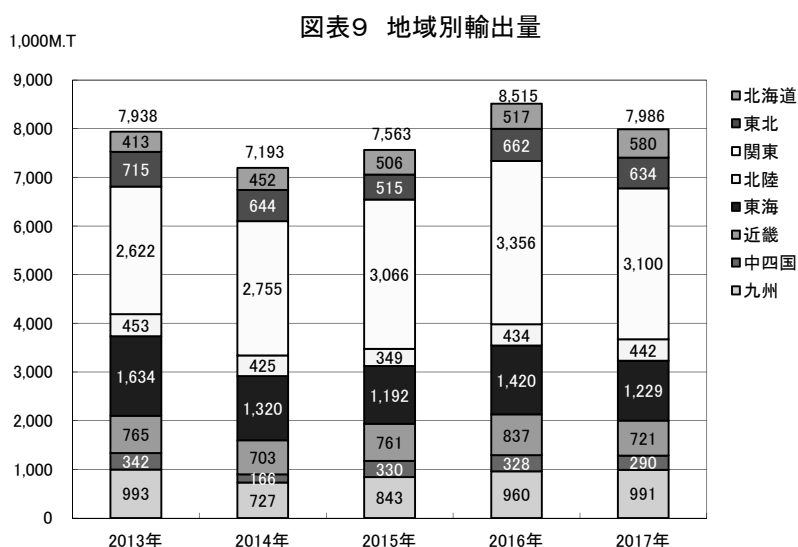
地域別出荷量の推移を図表8に示した。

スクラップ出荷量合計は2年連続の前年増となる3,208万トン（対前年171.7万トン増、同5.7%増）となった。地域別に見ると、北海道は4年ぶりの前年増となる101.6万トン（同8.3万トン増、同9.0%増）、東北は2年ぶりの前年減となる167.4万トン（同0.3万トン減、同0.2%減）、関東は2年連続の前年増となる891.5万トン（同43.7万トン増、同5.2%増）、北陸は2年連続の前年増となる137.5万トン（同5.3万トン増、同4.0%増）、東海は2年連続の前年増となる657.7万トン（同22.1万トン増、同3.5%増）、近畿は5年ぶりの前年増となる556.5万トン（同46.0万トン増、同9.0%増）、中四国は3年ぶりの前年増となる308.0万トン（同14.1万トン増、同4.8%増）、九州は2年連続の前年増となる385.6万トン（同34.0万トン増、同9.7%増）となった。なお、地域別のシェアは北海道3.2%、東北5.2%、関東27.8%、北陸4.3%、東海20.5%、近畿17.3%、中四国9.6%、九州12.0%であった。



地域別輸出量について図表9に示した。

炭素鋼スクラップの輸出量は3年ぶりの前年減となる799万トン（対前年52.9万トン減、同6.2%減）となった。地域別に見ると、北海道は5年連続の前年増となる58.0万トン（同6.3万トン増、同12.2%増）、東北は2年ぶりの前年減となる63.4万トン（同2.7万トン減、同4.1%減）、関東は4年ぶりの前年減となる310.0万トン（同25.6万トン減、同7.6%減）、北陸は2年連続の前年増となる44.2万トン（同0.7万トン増、同1.7%増）、東海は2年ぶりの前年減となる122.9万トン（同19.2万トン減、同13.5%減）、近畿は3年ぶりの前年減となる72.1万トン（同11.7万トン減、同13.9%減）、中四国は2年連続の前年減となる29.0万トン（同3.8万トン減、同11.7%減）、九州は3年連続の前年増となる99.1万トン（同3.1万トン増、同3.3%増）となった。なお、地域別のシェアは北海道7.3%、東北7.9%、関東38.8%、北陸5.5%、東海15.4%、近畿9.0%、中四国3.6%、九州12.4%であった。



4. 品種別・地域別国内購入量

品種別の購入量推移を図表10に示した。

国内の購入量合計は、その他以外はすべての品種で前年を上回り、3年ぶりの前年増となる2,409万トン（対前年224.5万トン増、同10.3%増）となった。内、加工スクラップは2年連続の前年増となる738.0万トン（同57.3万トン増、同8.4%増）、老廃スクラップは3年ぶりの前年増となる1,671万トン（同167.2万トン増、同11.1%増）であった。加工スクラップの増加量が老廃スクラップの増加量を下回ったことから、加工スクラップ構成比は30.6%と、前年から0.6ポイント低下した。

老廃スクラップでは、ヘビースクラップ（HS・H1・H2・その他）の購入量は1,374万トン（同142.9万トン増、同11.6%増）となった。ヘビースクラップの内訳を見ると、HSは2年連続の前年増となる353.1万トン（同35.4万トン増、同11.2%増）、H1は3年ぶりの前年増となる332.3万トン（同28.9万トン増、同9.5%増）、H2も3年ぶりの前年増となる338.7万トン（同32.3万トン増、同10.5%増）、その他ヘビースクラップは3年ぶりの前年増となる349.5万トン（同46.3万トン増、同15.3%増）となった。なお、シュレッダースクラップは3年ぶりの前年増となる195.4万トン（同25.8万トン増、同15.2%増）、プレススクラップは5年ぶりの前年増となる53.0万トン（同0.0万トン増、同0.1%増）となった。

加工スクラップでは、新断スクラップは2年連続の前年増となる444.8万トン（対前年43.3万トン増、同10.8%増）、鋼ドライ粉は3年ぶりの前年増となる212.8万トン（同11.7万トン増、同5.8%増）、銑スクラップは2年連続の前年増となる80.4万トン（同2.2万トン増、同2.8%増）となった。

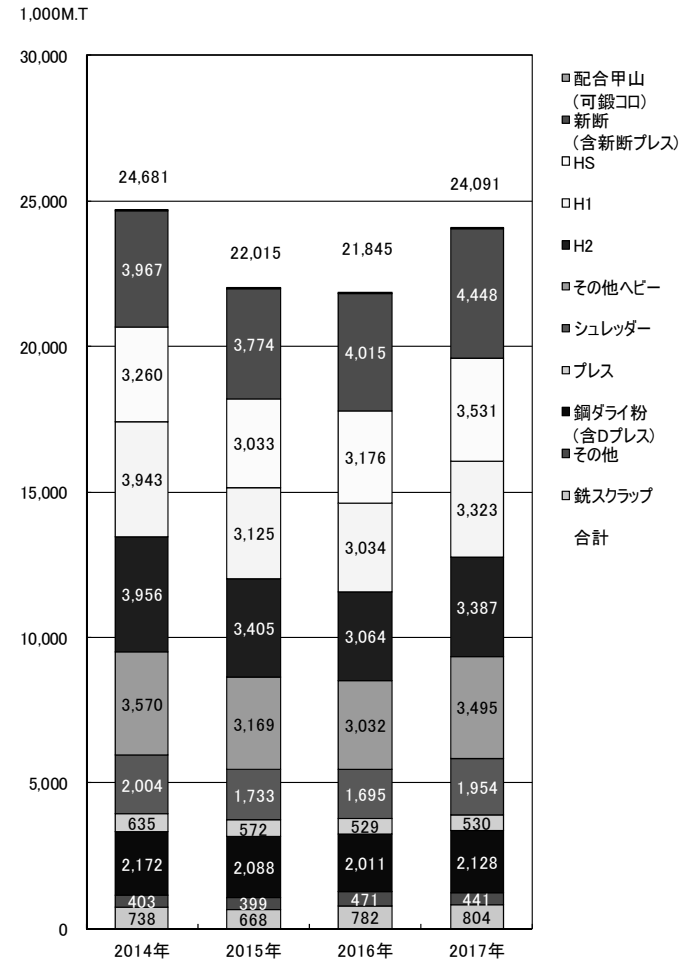
2017年の品種シェアは、配合甲山（可鍛コロ）0.2%、新断スクラップ（含新断プレス）18.5%、HS 14.7%、H1 13.8%、H2 14.1%、その他（H3、H4）14.5%、ヘビースクラップ計 57.0%、シュレッダースクラップ 8.1%、プレススクラップ 2.2%、鋼ドライ粉（含Dプレス）8.8%、銑スクラップ 3.3%となった。

地域別品種別の購入量を図表11に、同国内出荷量を図表12に、地域別品種別購入比率を図表13に、地域別品種別購入比率を図表14に示した。

図表10 鉄スクラップの品種別購入量推移

単位：1,000M.T, %

品種		2014年		2015年		2016年		2017年			
		購入量	構成比	購入量	構成比	購入量	構成比	購入量	構成比		
国内購入スクラップ	炭素鋼スクラップ	配合甲山(可鍛コロ)	34	0.1	48	0.2	35	0.2	50	0.2	
		新断スクラップ(含新断プレス)	3,967	16.1	3,774	17.1	4,015	18.4	4,448	18.5	
		ヘビースクラップ	HS	3,260	13.2	3,033	13.8	3,176	14.5	3,531	14.7
			H1	3,943	16.0	3,125	14.2	3,034	13.9	3,323	13.8
			H2	3,956	16.0	3,405	15.5	3,064	14.0	3,387	14.1
			その他(H3、H4)	3,570	14.5	3,169	14.4	3,032	13.9	3,495	14.5
		小計	14,729	59.7	12,733	57.8	12,307	56.3	13,736	57.0	
		シュレッダースクラップ	2,004	8.1	1,733	7.9	1,695	7.8	1,954	8.1	
		プレススクラップ	635	2.6	572	2.6	529	2.4	530	2.2	
		鋼ダライ粉(含Dプレス)	2,172	8.8	2,088	9.5	2,011	9.2	2,128	8.8	
	その他	403	1.6	399	1.8	471	2.2	441	1.8		
	計	23,943	97.0	21,346	97.0	21,064	96.4	23,287	96.7		
	銑スクラップ	738	3.0	668	3.0	782	3.6	804	3.3		
	合計	24,681	100.0	22,015	100.0	21,845	100.0	24,091	100.0		
加工スクラップ		6,876	27.9	6,530	29.7	6,807	31.2	7,380	30.6		
老廃スクラップ		17,804	72.1	15,484	70.3	15,038	68.8	16,710	69.4		



* この表における「加工スクラップ」とは新断、鋼ダライ粉、銑スクラップをいい、これ以外を「老廃スクラップ」という。

図表11 鉄スクラップの品種別購入量 (2017年)

単位: 1,000M.T

品種		メーカー所在地	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中・四国	九州	合計
		配合甲山(可鍛コ口)				0.1		13.0	5.2	19.0	12.5
新断スクラップ(含新断プレス)			10.2	255.6	621.0	54.1	1,437.2	1,040.2	392.7	637.1	4,448.1
炭素鋼スクラップ	ヘビースクラップ	HS	69.2	44.4	648.5	114.9	832.8	934.1	546.8	340.0	3,530.6
		H1	61.1	184.0	712.6	55.4	422.1	1,378.9	327.1	181.9	3,323.0
		H2	53.3	163.0	1,013.5	195.1	595.1	608.4	337.5	421.3	3,387.2
		その他(H3、H4)	90.6	150.9	674.2	350.8	635.5	843.0	416.8	333.4	3,495.3
		小計	274.2	542.3	3,048.8	716.2	2,485.6	3,764.4	1,628.2	1,276.5	13,736.2
国内購入スクラップ	シュレッダースクラップ	A	61.2	52.0	491.7	93.3	291.1	211.7	134.9	216.5	1,552.3
		B	21.1	1.7	104.4	38.5	58.0	34.2	21.7	121.5	401.2
	プレススクラップ	A	5.7	0.0	29.8	10.5	48.6	10.0	19.3	13.5	137.5
B		2.7	0.1	1.1	2.2	1.4	0.4	5.4	2.7	15.9	
C		14.2	30.4	122.4	3.5	37.8	113.6	23.2	31.4	376.3	
鋼ダライ粉(含Dプレス)			22.2	47.2	446.8	60.3	685.4	621.7	173.3	71.0	2,128.0
その他			4.9	4.8	91.0	21.8	83.9	161.3	56.8	16.9	441.3
計			416.4	934.0	4,957.0	1,000.3	5,142.0	5,962.6	2,474.6	2,399.5	23,286.5
銑スクラップ			1.8	46.4	121.3	39.4	118.2	337.7	92.6	46.5	804.0
合計			418.2	980.5	5,078.3	1,039.7	5,260.2	6,300.4	2,567.3	2,446.0	24,090.5

加エスクラップ	34.2	349.3	1,189.0	153.8	2,240.8	1,999.6	658.7	754.6	7,380.1
老廃スクラップ	384.0	631.2	3,889.3	885.9	3,019.4	4,300.8	1,908.6	1,691.4	16,710.4

* この表における「加エスクラップ」とは新断、鋼ダライ粉、銑スクラップをいい、これ以外を「老廃スクラップ」という。

図表12 鉄スクラップの品種別国内出荷量 (2017年)

単位: 1,000M.T

品種		供給業者所在地		北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中・四国	九州	その他	合計		
国内購入スクラップ	炭素鋼スクラップ	配合甲山(可鍛コロ)				0.1		13.3	13.3	10.6	12.5		49.7		
		新断スクラップ(含新断プレス)		10.3	154.4	791.8	76.2	1,560.4	728.6	539.0	587.7			4,448.1	
		ヘビースクラップ	HS		79.0	98.9	688.7	107.1	820.2	684.1	678.6	373.1	0.7		3,530.6
			H1		63.1	194.8	887.5	72.7	412.9	1,091.8	342.8	257.4	0.0		3,323.0
			H2		54.5	199.3	1,132.3	143.0	580.2	447.1	343.3	487.5	0.0		3,387.2
			その他(H3、H4)		90.8	208.9	820.8	256.5	630.7	699.0	313.3	474.9	0.5		3,495.3
		小計		287.4	702.0	3,529.3	579.3	2,444.1	2,922.0	1,678.1	1,592.9	1.2		13,736.2	
		シュレッダースクラップ	A		64.9	63.2	514.7	90.3	251.5	218.3	115.0	233.8	0.5		1,552.3
			B		21.3	3.5	120.3	33.6	59.8	34.0	48.2	80.4	0.0		401.2
			プレススクラップ		5.7	0.7	29.1	13.7	48.9	4.5	18.7	16.2	0.0		137.5
		プレススクラップ	B		2.7	1.1	0.5	1.7	1.9		5.1	3.0			15.9
			C		14.2	29.3	136.3	5.6	50.2	75.2	26.1	38.5	0.9		376.3
			鋼ダライ粉(含Dプレス)		22.2	54.5	446.3	91.9	702.6	526.5	208.2	75.8			2,128.0
		その他		4.9	6.6	95.4	18.7	87.8	151.0	40.1	36.8				441.3
		計		433.6	1,015.3	5,663.7	911.1	5,220.4	4,673.5	2,689.1	2,677.4	2.5			23,286.5
		銑スクラップ		1.8	24.1	151.5	22.1	127.9	170.7	100.7	187.6	17.6			804.0
		合計		435.4	1,039.4	5,815.2	933.2	5,348.3	4,844.2	2,789.8	2,865.0	20.1			24,090.5
加エスクラップ		34.3	233.0	1,389.6	190.2	2,390.9	1,425.7	847.9	851.0	17.4			7,380.1		
老廃スクラップ		401.1	806.4	4,425.7	742.9	2,957.3	3,418.4	1,941.9	2,014.0	2.7			16,710.4		

* この表における「加エスクラップ」とは新断、鋼ダライ粉、銑スクラップをいい、これ以外を「老廃スクラップ」という。

図表13 鉄スクラップの品種別購入比率 (2017年)

単位: %

メーカー所在地		北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中・四国	九州	合計		
		品種										
国内購入スクラップ	炭素鋼スクラップ	配合甲山(可鍛コ口)			0.0		0.2	0.1	0.7	0.5	0.2	
		新断スクラップ(含新断プレス)	2.4	26.1	12.2	5.2	27.3	16.5	15.3	26.0	18.5	
		ヘビースクラップ	HS	16.5	4.5	12.8	11.0	15.8	14.8	21.3	13.9	14.7
			H1	14.6	18.8	14.0	5.3	8.0	21.9	12.7	7.4	13.8
			H2	12.7	16.6	20.0	18.8	11.3	9.7	13.1	17.2	14.1
			その他(H3、H4)	21.7	15.4	13.3	33.7	12.1	13.4	16.2	13.6	14.5
		小計	(65.6)	(55.3)	(60.0)	(68.9)	(47.3)	(59.7)	(63.4)	(52.2)	(57.0)	
		シュレッダースクラップ	A	14.6	5.3	9.7	9.0	5.5	3.4	5.3	8.9	6.4
			B	5.1	0.2	2.1	3.7	1.1	0.5	0.8	5.0	1.7
		プレススクラップ	A	1.4	0.0	0.6	1.0	0.9	0.2	0.8	0.6	0.6
			B	0.6	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1
			C	3.4	3.1	2.4	0.3	0.7	1.8	0.9	1.3	1.6
		鋼ダライ粉(含Dプレス)	5.3	4.8	8.8	5.8	13.0	9.9	6.8	2.9	8.8	
		その他	1.2	0.5	1.8	2.1	1.6	2.6	2.2	0.7	1.8	
		計	(99.6)	(95.3)	(97.6)	(96.2)	(97.8)	(94.6)	(96.4)	(98.1)	(96.7)	
		銑スクラップ	0.4	4.7	2.4	3.8	2.2	5.4	3.6	1.9	3.3	
		合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

加エスクラップ	8.2	35.6	23.4	14.8	42.6	31.7	25.7	30.9	30.6
老廃スクラップ	91.8	64.4	76.6	85.2	57.4	68.3	74.3	69.1	69.4

* この表における「加エスクラップ」とは新断、鋼ダライ粉、銑スクラップをいい、これ以外を「老廃スクラップ」という。

図表14 鉄スクラップの品種別構成比（2017年）

単位：％

メーカー所在地		北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中・四国	九州	合計		
		品種										
国内購入スクラップ	炭素鋼スクラップ	配合甲山（可鍛コロ）			0.1		26.1	10.4	38.3	25.1	100.0	
		新断スクラップ（含新断プレス）	0.2	5.7	14.0	1.2	32.3	23.4	8.8	14.3	100.0	
		ヘビースクラップ	HS	2.0	1.3	18.4	3.3	23.6	26.5	15.5	9.6	100.0
			H1	1.8	5.5	21.4	1.7	12.7	41.5	9.8	5.5	100.0
			H2	1.6	4.8	29.9	5.8	17.6	18.0	10.0	12.4	100.0
			その他（H3、H4）	2.6	4.3	19.3	10.0	18.2	24.1	11.9	9.5	100.0
		小計	(2.0)	(3.9)	(22.2)	(5.2)	(18.1)	(27.4)	(11.9)	(9.3)	(100.0)	
		シュレッダースクラップ	A	3.9	3.4	31.7	6.0	18.8	13.6	8.7	13.9	100.0
			B	5.3	0.4	26.0	9.6	14.5	8.5	5.4	30.3	100.0
		プレススクラップ	A	4.1	0.0	21.7	7.6	35.4	7.3	14.1	9.8	100.0
			B	17.0	0.3	6.8	13.6	8.9	2.5	34.0	16.9	100.0
			C	3.8	8.1	32.5	0.9	10.0	30.2	6.2	8.3	100.0
		鋼ダライ粉（含Dプレス）	1.0	2.2	21.0	2.8	32.2	29.2	8.1	3.3	100.0	
		その他	1.1	1.1	20.6	4.9	19.0	36.6	12.9	3.8	100.0	
		計	(1.8)	(4.0)	(21.3)	(4.3)	(22.1)	(25.6)	(10.6)	(10.3)	(100.0)	
		銑スクラップ	0.2	5.8	15.1	4.9	14.7	42.0	11.5	5.8	100.0	
		合計	1.7	4.1	21.1	4.3	21.8	26.2	10.7	10.2	100.0	
加エスクラップ		0.5	4.7	16.1	2.1	30.4	27.1	8.9	10.2	100.0		
老廃スクラップ		2.3	3.8	23.3	5.3	18.1	25.7	11.4	10.1	100.0		

* この表における「加エスクラップ」とは新断、鋼ダライ粉、銑スクラップをいい、これ以外を「老廃スクラップ」という。